

【様式4】令和5年度 学校自己、及び、学校関係者評価表 武蔵村山市立第五中学校

経営理念	(1) 一人一人の生徒を大切に (2) 生徒の良さ、可能性を伸ばす (3) 教師の持ち味を生かして勝負する
------	---

【学校運営協議会・会長】 宮崎 保	6月1日(木)
学校運営協議会(学校評価分) 第1回	11月2日(木)
第2回	2月15日(木)
第3回	

	経営目標 (中期・短期を明記)	目標達成のための方策	評価指標	自己評価				分析コメント(学校関係者評価委員会の意見、児童・生徒評価、保護者評価等の意見について、参考にする。)	改善策(来年度の目標設定、具体記取組目標)	学校関係者評価		
				10月		11月				最終評価	意見	評価点 (4点満点)
				達成値	達成値	達成度	評価					
確かな学力の向上	【中期】全生徒に対しての基礎学力の定着を図る。	地球未来塾事業や東京都立武蔵村山高等学校生徒の学習サポートを活用し、定期考査前や放課後、長期休業中に、補習授業や補充教室を実施する。 生徒同士の話し合い活動や、グループ活動など授業中の様々な活動において、タブレット端末を活用する。	・補習授業・補充教室の回数(時間) ・教師自己評価 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	90	70	77	86	A	定期考査前に、担当教科の教員が補習教室を計画的に行うことができた(年間5回)。「地域未来塾」を計画的に活用し、夏季休業日及び6月から2月まで、3年生の数学と英語の学習を毎週行った。夏季休業中には、武蔵村山高校の生徒を講師として招き1年生を対象に学習会を開催できた。	来年度も引き続き、基礎学力の定着を図るために、定期考査前の補習教室、「地域未来塾」、武蔵村山高校の生徒による学習サポートを実施を継続する。例年、地域未来塾の参加者が、時期が進むと不参加数が増えてしまっている。年間を通して参加するよう、声掛けを続ける。	・「誰も置きざりにしない学習」として、補習授業の充実が必要であると思う。 ・武蔵村山高校の生徒たちには、学習サポートを快く引き受けてくれ非常に感謝している。	3.6
	【中期】家庭学習時間を増やし、習慣化を図る。	「学習の手引き」や「学習計画表」を活用し、家庭学習の計画を立てさせ、学習習慣を身に付けさせる。保護者会や学年便りなどで、家庭学習習慣の確立に向けた保護者への啓発を行う。 各教科で家庭学習課題に継続して取り組ませる。	・家庭学習に取り組んだ時間 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	85	64	68	80	A	昨年度に続き、家庭との連携を深めるために、学習の手引きの改訂版(保護者の役割掲載)を配布し、協力をしていただいた。しかし、今年度も家庭学習の習慣化はまだまだ十分とは言えない状況である。	次年度も年度当初に、学級活動等で担任から「学習の手引き」を使った指導や学習計画表を活用し、習慣化を目指す。家庭学習ができる学習支援コンテンツを活用してもらうよう保護者会や面談等で家庭に協力を求めている。	学習の計画は立てることは大切だと思う。立てるだけに留まらず計画に対しての確認機能が生徒ができるような仕組みがあると継続につながると思う。	3.3
	【中期】読書活動・朝学習の活性化を図る。	朝学活終了後、朝読書や朝学習、NIEを実施する。また、学校司書と連携し、学級図書や図書室活用を通して、本への興味・関心を高め、読書量を増やす。さらに1人1台のタブレット端末を活用した、朝学習を行う。	・図書室の利用生徒数 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	85	64	67	79	B	今年度も学年ごと曜日を設定して朝読書を行った。年間五冊以上の読書を目指したが、全校では4割程度の生徒しか達成ができず、十分に身に付いたとはいえない。図書室の活用を促す活動や、学級文庫の充実など啓発活動は行うことはできた。	朝読書の活動を今後も継続して、読書の習慣化を図る。生徒に対して読ませる指導ということだけでなく、教員を含めた学校全体で読書をする習慣をつけていくように工夫する。また、図書室の利用や学級図書の活用の仕方を工夫して行っていく。	読解力、読書力を身に付けるために日々の時間の中に取り入れていける朝学習等はよいと思う。	3.3
	【中期】基礎的・基本的事項の向上を図る。	各種検定(英検・漢検・数検)に自主的に取り組み、学習意欲と基礎的・基本的事項の向上を図る。	・検定受験生徒の割合 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	85	50	65	76	B	英検、漢検、数検の受験を勧め、英検と漢検については、学校会場として、開催することができた。	次年度も漢字・英語・数学の各検定の日程を生徒へ周知し、受験を奨励し、いずれかの資格を取得させるよう努める。	・中学時代における各種検定は、推奨していく周囲環境が望ましい。 ・各種検定は、長い間五中で行われており、高校受験を目指す1つの目標になっていると思う。日頃の授業だけでなく、自ら学習しやすいものなので、継続できることが望ましい。	3.5
豊かな心の育成	【中期】いじめ撲滅への取組	年3回のふれあい月間を活用し、いじめに関するアンケートや教育相談、人権教育に関する授業を行い、生徒が主体的にいじめ防止の取組を行うよう推進する。 SNSに関するトラブルの未然防止のため、情報モラル教育を行う。道徳の授業において生命尊重や思いやりを重点に指導する。また、道徳授業地区公開講座等保護者の参加を促し、家庭と連携した取組を行う。	・教師自己評価 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	90	60	70	78	B	年3回のふれあい月間によるアンケートや教員と生徒の2者面談等を行い、いじめ防止の取組を行った。SNS教室ではマルチメディア振興センターの方を講師に招いて情報モラル教育を行った。毎週、いじめ対策委員会を実施し、いじめにつながりそうな案件を早期に把握し、校内で共有・対応した。五中サミットでは、小中高が集まり、いじめ撲滅について討議することができた。	道徳授業地区公開講座では、教員・地域・保護者で家庭や地域でできる道徳教育についてグループディスカッションを行うことができたが、生命尊重や思いやりについて深く話し合うところまでは至っていない。次年度以降はテーマを絞って討議を行いたい。五中サミットは今年度も継続し、校区で連携しいじめ撲滅に取り組ませたい。	・SNSにおけるトラブル等、関わり方を学ぶことが大事だと思う。さらに根本的な人権の尊重という部分にリンクできるような道徳授業の必要性を感じる。 ・自己肯定感を高めるために、自分の好きなことをやっていく力を伝えて欲しい。 ・三年間五中に入籍する中で、常に発信していき、専門機関の有識者による講座などを行って欲しい。	3.4
	【中期】特別な支援を要する生徒への対応	特別支援教室、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係諸機関と連携し、教育相談活動の充実を図るとともに、ユニバーサルデザインを推進する。また、教育相談部会を中心に個に応じた指導を進める。	・教師自己評価 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	90	65	75	83	A	毎週教育相談部会を開催し、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーも参加していただき、生徒支援の具体策の検討・実施を行うことができた。巡回心理士や特別支援教室の指導教員と協働して、個別指導や特別の支援が必要な生徒への指導を行うことができた。	関連機関との迅速な連携を行うために、次年度も教育相談部会にスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーにも参加していただき、日頃から情報を共有していく。特別支援コーディネーターや不登校巡回指導教員、特別支援教室教員、巡回心理士を中心に不登校生徒や特別な支援が必要な生徒の支援体制を充実させる。	・SNS等ソーシャルネットワークのモラル指導を期待する。 ・特別な支援を要する生徒への対応として、ユニバーサルデザインも含めて過ごしやすい環境的な構造化の配慮が必要と思う。	3.2
	【短期】地域活動・ボランティア活動を充実させる。	担当者の計画的なボランティア募集等の取組により、地域行事やボランティア活動への生徒の参加率を高めていく。また、小中連携の取組として生徒会を中心に、あいさつ運動やペットボトル回収や本の読み聞かせなどを行う。	・参加した生徒の延べ人数 ・生徒アンケート ・保護者アンケート ・地域関係者の評価	90	58	70	78	B	二小・八小・十小とのあいさつ運動とペットボトルキャップ回収を行うことができた。市のクリーン作戦、夏休みのラジオ体操、十小みかん狩りなどのボランティアに多くの生徒が参加した。今年度も生徒会役員と図書委員による、小学生への読み聞かせも行うことができた。	次年度も、校区の小学校と連携した取組を継続していく。地域行事など、様々なボランティア活動に参加する生徒が増えるように促していく。	・地域で様々な組織とかかわり、生徒たちにとって故郷としての地域を意識づけのもとになっていると思われる。また、ボランティア活動を継続して欲しい。 ・ボランティア活動が徐々に以前のように戻ってきている。ラジオ体操や、ミカン狩りハイキングにおいて自主的に行動をしている姿を目にし、感謝とともに生徒と地域のかかわりが大切だと感じる。 ・社会に生きていくには、家庭と学校、地域での様々な活動に多く参加させて欲しい。	3.9
健やかな体の育成	【中期】障害者理解を深め、ボランティア意識を高める。	パラリンピアン等を講師に招き、豊かな国際感覚を養うとともに、体験や交流を通して、障害者理解やボランティア活動を推進する。	・教師自己評価 ・生徒アンケート	85	65	72	85	A	車いすバスケットボール選手を招き、講演や実技体験を行い、障害者理解を深めることにつながれた。高齢者理解として高齢者体験を行い、不自由さを体感するとともに、援助やボランティア活動に繋がれるようにできた。	来年度も、バラスポーツ選手やパラリンピアンを講師に招き、国際理解教育や障害者理解教育を推進していく。	・障害者への理解を、日常の中で受けとめられる感覚を深める体験をして欲しい。 ・1学年の高齢者疑似体験、2学年の車椅子バスケットボールのパラリンピアンによる講演会等、今後も継続して行ってほしいと思う。	3.8
	【短期】基本的な生活習慣を確立し、健康に過ごす意識を高める。	SDGsの飢餓や健康について考えさせ、残食ゼロウィークに積極的に参加させる。給食の残菜率の結果分析に基づき、食育の取組を行う。 給食時の放送を利用して、食材の紹介や食育をすすめる取組を行う。	・給食残菜率調査 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	90	69	72	80	A	SDGsに関連付け、「残食ゼロウィーク」を通して、給食開始時間を早めて給食時間を確保するキャンペーンを行った。また、昼の放送で、食材の紹介等を行った。	昼の放送を活用し給食について知らせていく。来年度も、残食ゼロウィークだけでなく、日頃から給食時間の確保を意識させられるよう、給食員会を中心に取り組んでいく。	・引き続き協力していく所存です。 ・中学時代の生活習慣の積み重ねが、心身共に健康な大人を作っていくと思うので、日々の小さなルールが大切だと思う。(食もそうだが、手洗い・うがい・歯みがきなど運動も)	3.7
開かれた学校	【中期】コミュニティ・スクールとして、学校への参画意識を高める。	コミュニティ・スクールとして、活動方針や活動内容を周知し、様々な取組(五中フェスティバル・プロから学ぶ会等)を推進する。	・学校運営協議会が関わる活動に参加した生徒 ・保護者の割合 ・生徒アンケート ・保護者アンケート	90	70	80	89	A	地域の方の協力により、今年度も五中フェスティバルとプロから学ぶ会を実施できた。また、3年生に対し、面接官として模擬面接を実施していただいた。今年度の芝刈りや防犯パトロールもPTA役員や地域の方に参加していただき実施することができた。みんなの音楽会も数年ぶりに開催することができた。	3年生に対しての模擬面接は、学校の先生ではない方による面接であり、緊張感をもたず意味でも継続していきたい。また、五中フェスティバルやプロから学ぶ会やみんなの音楽会は、今後も継続的に実施していきたい。次年度もPTA・地域の方々の協力が得ながら、芝刈りや防犯パトロールを実施していきたい。	・五中フェスティバル、プロから学ぶ会などで、地域と学校がつながり協力している。多種多様な講座が増えることを期待する。 ・学校とコミュニティとの協力は、地域を大切にしているとよく出来ている学校だと思っている。今後も地域の人として、学校に協力していきたい。	4.0
	【中期】保護者・地域の教育力を取り入れた教育活動の展開	地域行事へ積極的に参加し、地域の教育力で社会性を育む。地域との交流やまちづくり学習を通して、SDGsを知り、国際理解教育を推進する。	・外部講師の活用回数 ・生徒アンケート ・保護者アンケート ・地域関係者の評価	90	65	75	83	A	数年ぶりに、お祭りなど地域行事が復活したものがあり、教員によるパトロール協力を実施した。また、ラジオ体操やミカン狩り、お祭りの手伝いなどに多くの生徒が参加した。地域の力を取り入れて、まちづくり学習に繋げる活動を行うことができた。	次年度も、まちづくり学習につながるよう、地域行事に教員・生徒が積極的に参加するよう声掛けを行っていく。また、地域の力を取り入れる活動(五中フェスティバルやプロから学ぶ会など)も推進していく。さらに、SDGsや国際理解教育を推進できるよう計画を立て、準備をしていく。	・生徒たちには、積極的にまちづくりやボランティア活動に参加させてもらいたい。 ・地域行事への参加は生徒が支えられている地域を再認識させる重要な教育の一部だと思う。 ・保護者の協力を得られていると感じる。 ・学校と地域と家庭が一体となり、より協力できるようになると良いと思う。	3.9

【達成度】 = [達成値] / [目標値]

【評価】 A: 8割以上→目標達成とみなし新たな目標設定

B: 8割未満5割以上→8割を超えるまで継続実施

C: 5割未満→目標の見直し

平均値

3.6